

社会科（地理的分野）学習指導案

1. 単元名 「経済発展からみるアジア州－知識の段階的な成長を目指して－」

2. 単元設定の理由

(1) 教材観

現行学習指導要領地理的分野2内容(1)「世界の様々な地域」における「ウ 世界の諸地域」の学習においてアジア州を取り上げる。アジア州には、世界人口の約6割が住んでおり、豊富な労働力と人件費の安さを背景に外国企業が進出してきている。近年では、農業の近代化や都市での工業化が進み、多くの人が農村から都市に移り住んでいる。また、豊富な鉱産資源や高い教育水準を背景に産業を発展させGDPを伸ばしている国や地域も多い。

そこで、本単元では「なぜ、アジア州では、近年、経済発展をしている国、地域が多いのだろう」という問いを立て、「経済発展」をキーワードにアジアの地域的特色を捉えさせる学習を構想する。

(2) 生徒観

(3) 指導観

第1時では、アジア州を概観する。第2、第3時では、中国やシンガポールが経済発展をとげた原因を追究し、原因と結果の関係を示す説明的知識を習得する。第2・第3時に習得した説明的知識を、第4時では予想、仮説を立てる際のモデルとして活用させる。また、前時までに習得した知識と本時で習得する知識を比較したり関連付けさせたりして、より説明力の大きい知識を習得させる。さらに、第5時では、本時までに習得した説明的知識を活用させ、UAEの経済発展の原因を探究させる。このように既習の説明的知識を他の事例に当てはめて検証することで、一般性の高い知識に成長させることができる。当初の知識では説明しきれない要素が追加されることによって、場面に応じた知識を段階的に習得させることができる。このような知識の段階的な成長を意図した指導を本単元で目指す。

3. 単元の指導計画と評価規準(全6時)

(1) 単元の指導計画

- 第1時 アジア州を概観する
- 第2時 経済発展からみる東アジア（中国を例に）
- 第3時 経済発展からみる東南アジア（シンガポールを例に）
- 第4時 経済発展からみる南アジア（インドを例に） **【本時】**
- 第5時 経済発展からみる西アジア（UAEを例に）

(2) 単元の目標

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
経済発展から見えるアジア州の地域的特色について意欲的に追究し、捉えることができる。	アジア州の地域的特色を、経済発展という主題を基に、習得した知識を比較、関連付けて考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。	アジア州に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、読み取ったりまとめたりすることができる。	アジア州について、経済発展という主題から見える人口や面積などの地域的特色を理解し、その知識を身に付けることができる。

(3) 評価規準

	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・ 理解
第1時	○アジア州の人口、 自然環境、産業、 生活、文化から見 える特色について 意欲的に追究しよ うとする。		○資料からアジア州 の各地域が経済発 展していることを 読み取る。	
第2時		○資料から読み取った情 報を比較したり、関連 付けたりして、中国の 経済発展の理由を考察 している。		○中国は、鉱産資源が豊富であ り、また、人口が約13億人で、 国内市場が大きい。経済特区 をきっかけにして、経済発展 したことを理解し、その知識 を身に付けている。
第3時		○資料から読み取った情 報を比較したり、関連 付けたりして、シンガ ポールの経済発展の理 由を考察している。		○シンガポールは、市場経済を 積極的に導入している。また 、教育に力を入れており、国 家予算の30%を教育費に充て ている。これらのことなどか ら、シンガポールは経済発展 したことを理解し、その知識 を身に付けている。
第4時 【本時】		○前時までに習得知識を 基に、インドの経済発 展の理由について予想 を立てている。 ○前時までに習得した知 識と本時で活用する資 料から読み取った情報 とを関連付けて、イン ドの経済発展の理由を 考察している。		○インドは、鉱産資源が豊富で あり、人口が約12億人で国内 市場が大きい。外国企業を積 極的に受け入れることによっ て自国の工業化を進めてきた 。加えて、教育水準の高さや 準公用語が英語であることな どが影響しIT産業を中心とし た企業が急速に発展したこと 理解し、その知識を身に付け ている。
第5時		○前時までに習得した知 識と本時で資料から読 み取った情報を関連付 けて、UAEの経済発展の 理由を考察している。		○UAEは、豊富に産出される石 油を輸出することで、経済を 成長させてきた。中東最大級 の経済特区を設け、外国企業 の誘致に力を入れている。ま た、観光業・金融業・流通業 にも力を入れ、経済を成長さ せていることを理解し、その 知識を身に付けている。

4. 本時案

(1) 本時の目標

- ①前時までに習得した知識を基に、インドの経済発展の理由について予想を立てている。
- ②前時までに習得した知識と本時で活用する資料から読み取った情報とを関連付けて、インドの経済発展の理由を考察している。 【社会的な思考・判断・表現】
- インドは、鉱産資源が豊富であり、人口が約12億人で国内市場が大きい。外国企業を積極的に受け入れることによって、自国の工業化を進めてきた。加えて、教育水準の高さや準公用語が英語であることなどが影響しIT産業を中心とした企業が急速に発展したこと理解しその知識を身に付けている。 【社会的事象についての知識・理解】

(2) 本時の学習指導過程

過程	学習活動	○おもな発問 □おもな呼びかけ	予想される生徒の 反応	指導上の留意点資料	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・写真から気付いた点を発表させる。 ・インドの経済発展の様子について資料から知る。 ・本時の学習課題を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これは日本のアニメです。最近、インドでリメイクされました。日本のものとの違いを答えましょう。 ○なぜ、今になって巨人の星がインドで放送されたのでしょうか。 ○20年前と現在のインドの写真と比較して読み取れることは何でしょう。 ○グラフからどのようなことが読み取れるでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は野球だが、インドは野球ではない。 ・昔の日本と今のインドが似ているから。 ・20年前の写真は道が整備されていない。 ・最近の写真は近代的なビルが多く建っている。 ・インドの1人あたりのGDPは年々上昇している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリスで盛んなスポーツであるクリケットから、インドとイギリスの関係を知らせる。 ・昔の高度経済成長していた頃の日本と今のインドが似ていることから放映を決めた、という担当者の話を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> △「巨人の星」の写真(①～③) △「インド版巨人の星」の写真(④、⑤) △インドの街角昔(⑥)と今の写真(⑦) △インド1人あたりのGDP表(⑧)
◎なぜ、インドでは、近年、急速に経済発展しているのだろう。					
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題について予想する。 ・中国とシンガポールとインドの共通点と相違点について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どのような点が共通し、どのような点が相違しているのでしょうか。 ○インドはどのような経済発展をしたのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が多いから ・物価が安いから ・外国企業を誘致しているから ・人材育成のために教育に力を入れているから ・観光産業に力を入れているから ・インドと中国は人口が多い。 ・インドは面積が大きく、シンガポールは面積が小さい。 ・人口構成が中国と似ているので、中国のような経済発展をしたので 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの習得知識を基に予想させる。 ・世界の国別統計の中にある人口や面積、人口密度、農産物や鉱産資源等 	

<p>・習得した知識を基に予想する。</p>	<p>○なぜ、インドは、近年急速に発展しているのでしょうか。</p>	<p>はないか</p>	<p>に着目するように指示する。</p>								
<p>(予想①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く人が多くて、企業も安い給料で済む。コストが低いため、同じ商品を作るにしても他の国よりもうかりやすいのではないか。 ・中国と同じように若い人が多いのではないか。 											
<p>(予想②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊富な資源を利用して、輸送費を浮かせるために現地に海外からの工場を作ることにより、工業化を進めてきた。 											
<p>・予想を検証する。</p>	<p>○資料を見て、予想①・②を検証してみましょう。</p>		<p>・中国、シンガポールで学んだ知識やインドの各種資料を用い検証するよう指示する。</p>								
<p>【活用する資料】</p> <table border="0"> <tr> <td>△地図帳P.24「インドの地図」</td> <td>△教P.8「人口の多い国」</td> </tr> <tr> <td>△物価のグラフ(⑨)</td> <td>△インドの人口ピラミッドの図(⑩)</td> </tr> <tr> <td>△外国企業の進出状況(⑪)</td> <td>△給与の表(⑫)</td> </tr> <tr> <td>△資料集P.48②「南アジアの鉱工業」</td> <td>△「タタとラパンの価格」(⑬)</td> </tr> </table>				△地図帳P.24「インドの地図」	△教P.8「人口の多い国」	△物価のグラフ(⑨)	△インドの人口ピラミッドの図(⑩)	△外国企業の進出状況(⑪)	△給与の表(⑫)	△資料集P.48②「南アジアの鉱工業」	△「タタとラパンの価格」(⑬)
△地図帳P.24「インドの地図」	△教P.8「人口の多い国」										
△物価のグラフ(⑨)	△インドの人口ピラミッドの図(⑩)										
△外国企業の進出状況(⑪)	△給与の表(⑫)										
△資料集P.48②「南アジアの鉱工業」	△「タタとラパンの価格」(⑬)										
<p>・資料を見て、インド独自の経済発展の理由を考える。</p>	<p>○経済発展の理由として、中国やシンガポール以外の要因を資料から見つけてみましょう。</p>										
<p>【活用する資料】</p> <table border="0"> <tr> <td>△インド、日本の算数ドリル(⑭)</td> <td>△教育(⑮)</td> </tr> <tr> <td>△24時間仕事ができる図(⑯)</td> <td>△コラム(⑰)</td> </tr> <tr> <td>△「お札のコラム」</td> <td>△「カースト制度」の図(⑱)</td> </tr> <tr> <td>△「IT産業とカースト制度」のコラム(⑲)</td> <td>△「技術者の年収比較」(⑳)</td> </tr> </table>				△インド、日本の算数ドリル(⑭)	△教育(⑮)	△24時間仕事ができる図(⑯)	△コラム(⑰)	△「お札のコラム」	△「カースト制度」の図(⑱)	△「IT産業とカースト制度」のコラム(⑲)	△「技術者の年収比較」(⑳)
△インド、日本の算数ドリル(⑭)	△教育(⑮)										
△24時間仕事ができる図(⑯)	△コラム(⑰)										
△「お札のコラム」	△「カースト制度」の図(⑱)										
△「IT産業とカースト制度」のコラム(⑲)	△「技術者の年収比較」(⑳)										
<p>・インドの経済発展の理由をまとめる。</p>	<p>○前時までの習得した知識とインドの経済発展をそれぞれ表にまとめましょう。</p> <p>○仮説を検証して、分かったことや、後半の資料を使って考えたことを関連付け、インドの経済発展の理由をまとめましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な労働力 ・外国企業の進出 ・鉱産資源が豊富 ・教育水準の高さ ・準公用語が英語 ・IT産業がさかん 	<ul style="list-style-type: none"> ・班で活動するよう指示する。 ・ワークシートの指定された場所に記入するよう指示する。 ・中国・シンガポールの経済発展で学んだ学習内容について、確認する。 								
<p>まとめ</p>	<p>インドは豊富な労働力があり、人件費が安い。また国内には多くの鉱産資源が存在しているので、原料の輸送費を浮かし、安い製品をつくることできる。このような理由からインドに進出する外国企業を積極的に受け入れることによって自国の工業化を進めてきた。加えて、教育水準の高さやアメリカとの時差、準公用語が英語であることからIT産業が発展した。以上の理由から、インドは、近年、急速に経済発展している。</p>										

【 参考文献 】

- ・岩田一彦・米田豊 編著『「言語力」をつける社会科授業モデル』明治図書 2009,9
- ・田所伸「インドー成長する経済ー」 2008
- ・中本和彦「世界の地誌・学習材ー単元『インド』ー」 2015
- ・経済産業省「特異な経済成長を遂げるインド経済の特徴と課題」 2007

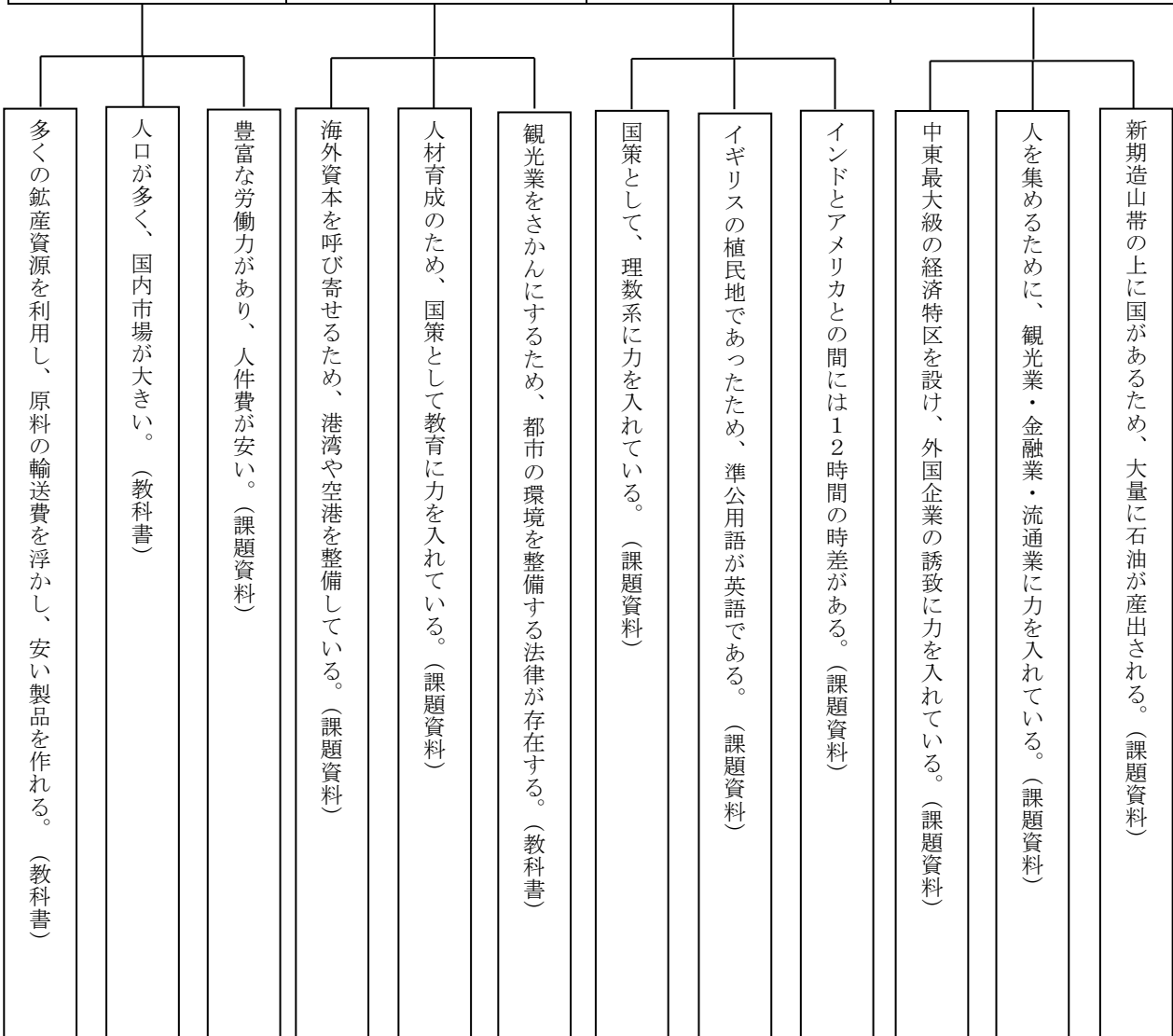
【単元を貫く問い】

「なぜ、アジア州では、近年、経済発展をしている国、地域が多いのだろう」

【単元で習得すべき知識】

アジア州では、豊富な労働力と人件費の安さを背景に経済特区をきっかけにして外国企業が進出してきている。さらに、鉱産資源が豊富な国では原料の輸送費を浮かし、安価な工業製品を多く製造している。また、旧植民地国では、英語を話す国民も多く、教育を充実させることで新しい産業分野での人材育成も図っている。以上のような理由からアジア州では、近年経済発展している国や地域が多い。

中国での習得知識	シンガポールでの習得知識	インドでの習得知識	UAEでの習得知識
<p>鉱産資源が豊富であるため、それらを活かして安い工業製品を作ることができる。</p> <p>人口は約13億人であり、国内市場が大きい。また、平均年齢が若く、企業は若い労働者を安い給料で大量に雇い、他国よりも安い商品を作っている。</p> <p>経済特区を中心に海外の会社や工場が建てられている。</p>	<p>海外の資本を呼び寄せるために、港湾や空港を整備して市場経済を積極的に導入している。</p> <p>きれいな町を維持し、海外からの移住者を呼び寄せるためにポイ捨てなどに対する細かな罰則を定めている。</p> <p>人材育成のため教育に力を入れて。</p>	<p>国策として理数系に力を入れている。そのため数学に強い。イギリスの植民地であったため英語を話せる人が多い。アメリカとの時差を活かし、効率的にソフトウェアの開発やコールセンターの業務を行っている。</p> <p>また、IT産業は新しくできた分野であるため、階層を気にせずいろいろな人たちが挑戦できる。</p>	<p>豊富に産出される石油を輸出することで、経済を成長させてきた。</p> <p>石油資源は将来的になくなってしまいうため、中東最大級の経済特区を設け、外国企業の誘致に力を入れている。</p> <p>また、観光業・金融業・流通業にも力を入れ、石油に頼らないで、経済を成長させている。</p>



①巨人の星OP



④巨人の星 (インド)



⑥インド街角 (昔)



⑦インド街角 (今)



⑨インド、物価のグラフ

・水 1.0 リットルペットボトル

: Rs.15~20 (25.5 円~)

・インスタントヌードル 1 個

: Rs.15 (25.65 円)

・クッキー、ビスケット(6 枚入り)

: Rs.25-40 (42.75 円~)

(「週刊ABROADEARS」より)

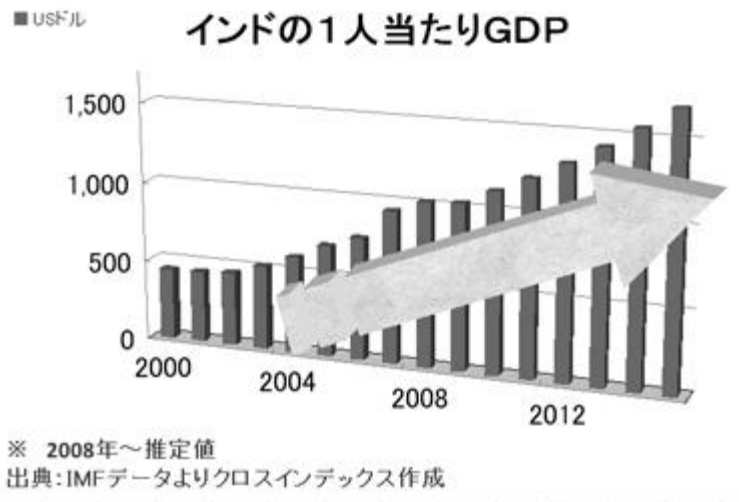
②巨人の星 (養成ギブス)



⑤巨人の星 2 (インド)



⑧GDP

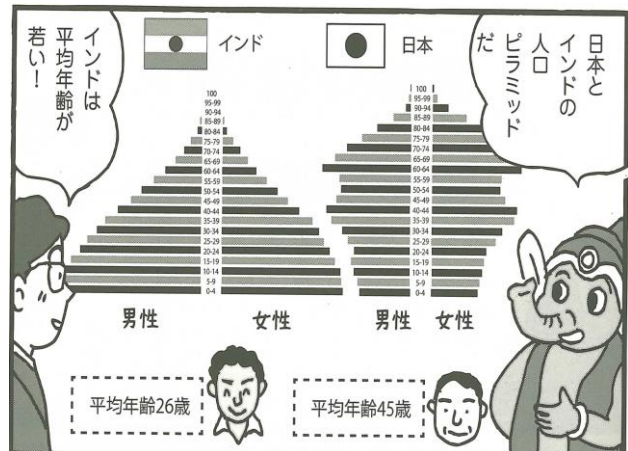


③巨人の星 (ちゃぶ台)



(「巨人の星」より)

⑩人口ピラミッド (「インドの経済が3時間で分かる本」より)



たくさんお金をかせいで、たくさんモノを買うぞ!!

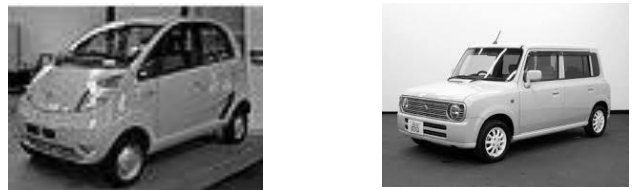
⑪外国企業の進出（「IBC」より）



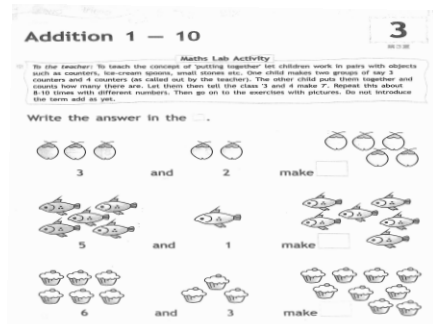
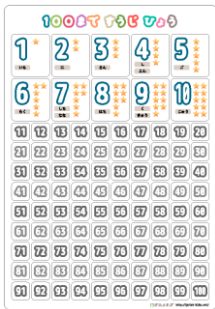
⑫製造業の平均年収

- 日本人平均年収・・・450万円
- インド人平均年収・・・20万円
(「日印教会」より)

⑬タタとラパンの価格比較（20万円、100万円）



⑭日本とインドの算数ドリル（「インドの算数①」より）



⑮教育

インドは国をあげて、IT教育をおこなう大学を増やすなどして理数系の教育に力を入れてきた。ちなみに、アジアで初のノーベル賞物理学受賞者はインド人である。また、IT社会に向けてコンピューター教育を積極的に取り入れている。G8（日本の中1）のクラスではパソコンを使って、朝食のメニューを写真入りで紹介するホームページを作成する。
(日本経済新聞より作成)

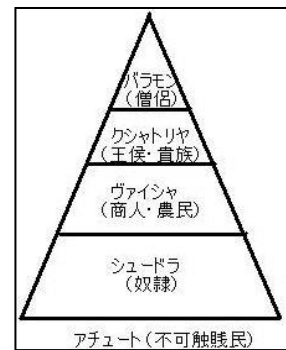
⑯時差（「<http://s-yoshida0.my.coocan.jp/tiri/sub19.htm#top19>」より）



⑰IT産業従事者

アメリカとインドは地球の真裏どうしで、およそ12時間の時差があります。この時差を利用してソフトを効率よく作ることができるのです。つまり、朝からアメリカで作ったソフトを夜になるとインドに送る。するとインドは朝を迎えており、夜まで作業を進める。そしてまたアメリカに送り…と作業は止まることなく進められ、完成までの時間は短縮されるのです。
「がっちりマンデー」より

⑱カースト制度



⑲IT産業とカースト制度

ITという職業は、今までの世襲職業（生まれたときから仕事が決まっている）の範囲外の新しい仕事である。なので、どのカーストかは問題にならず、本人の能力だけでチャレンジできる。
「福井大学教育実践研究」より

⑳IT技術者の平均年収（アメリカとインド）

- 日本人技術者・・・664万円
- インド人技術者・・・97万円
(「リクナビ」より)